

各エリアの特性

パークライフの拠点として、「楽しむ」「憩う」「集う」みどりを各エリアの特性を踏まえ整備します。各エリアごとに多様な体験ができる場を創出し、アクティビティループと多摩川ラインで繋ぐことで、回遊すると次々と新たな魅力に出会うことができる公園となります。

スポーツエリア

川を感じる緑に囲まれた環境で、多様なスポーツを楽しむ人々が気持ちの良い汗を流せるスポーツリトリートゾーン



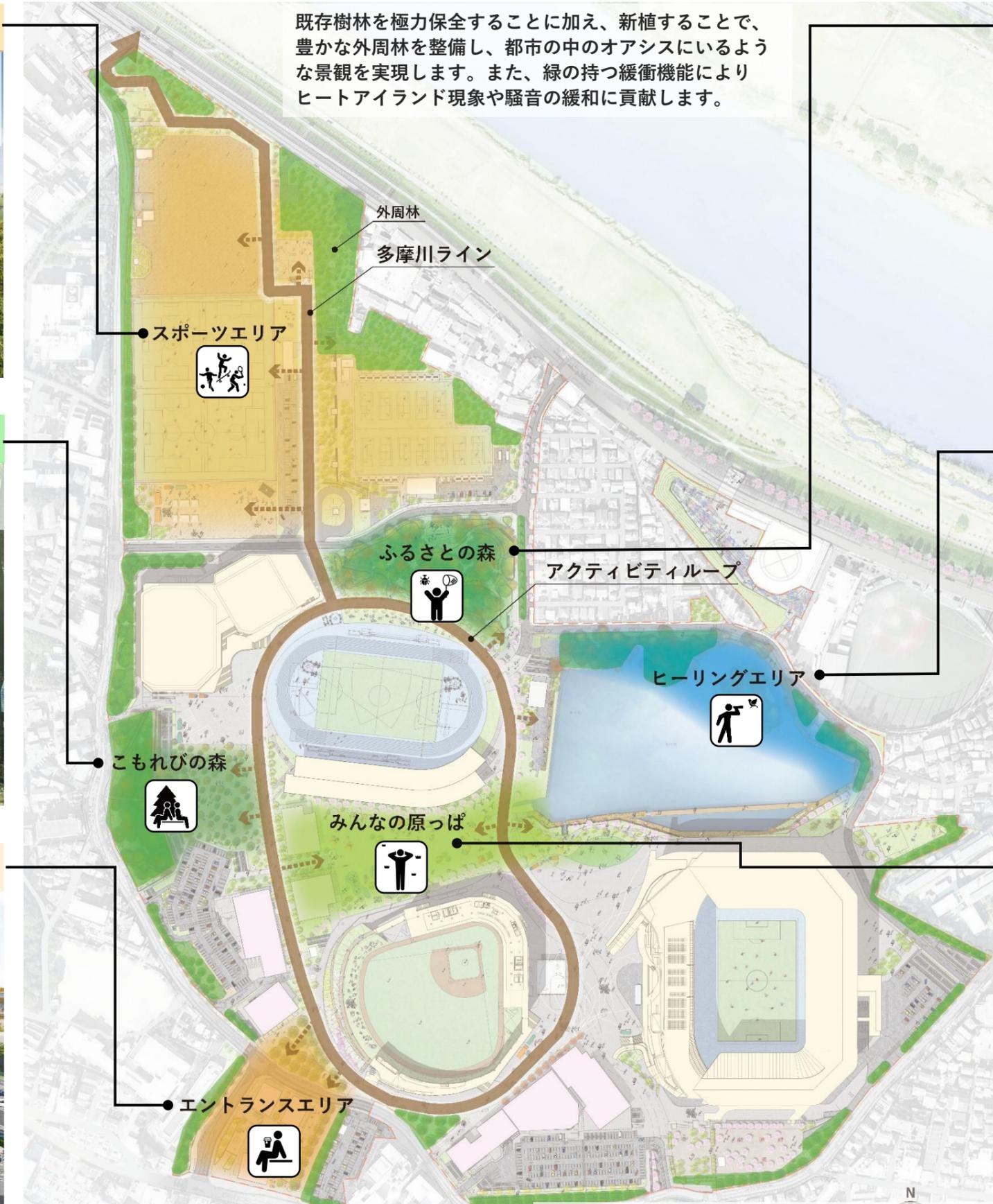
こもれびの森

森と一体となった木々の広場で木漏れ日の中、仲間や家族と遊べる・学べる・憩える森



エントランスエリア

緑や彩を感じる空間で、通りすがりや待合せなどちょっとした時間を過ごせる等々力緑地公園のエントランス空間



ふるさとの森

大きな樹木のある森の中で自然とのふれあいを通じた様々な体験と交流ができる自然体験の拠点



ヒーリングエリア

水と緑を感じる風景の中で日常のウォーキングなどの健康活動や休息を楽しめるやすらぎ空間



みんなのはらっぱ

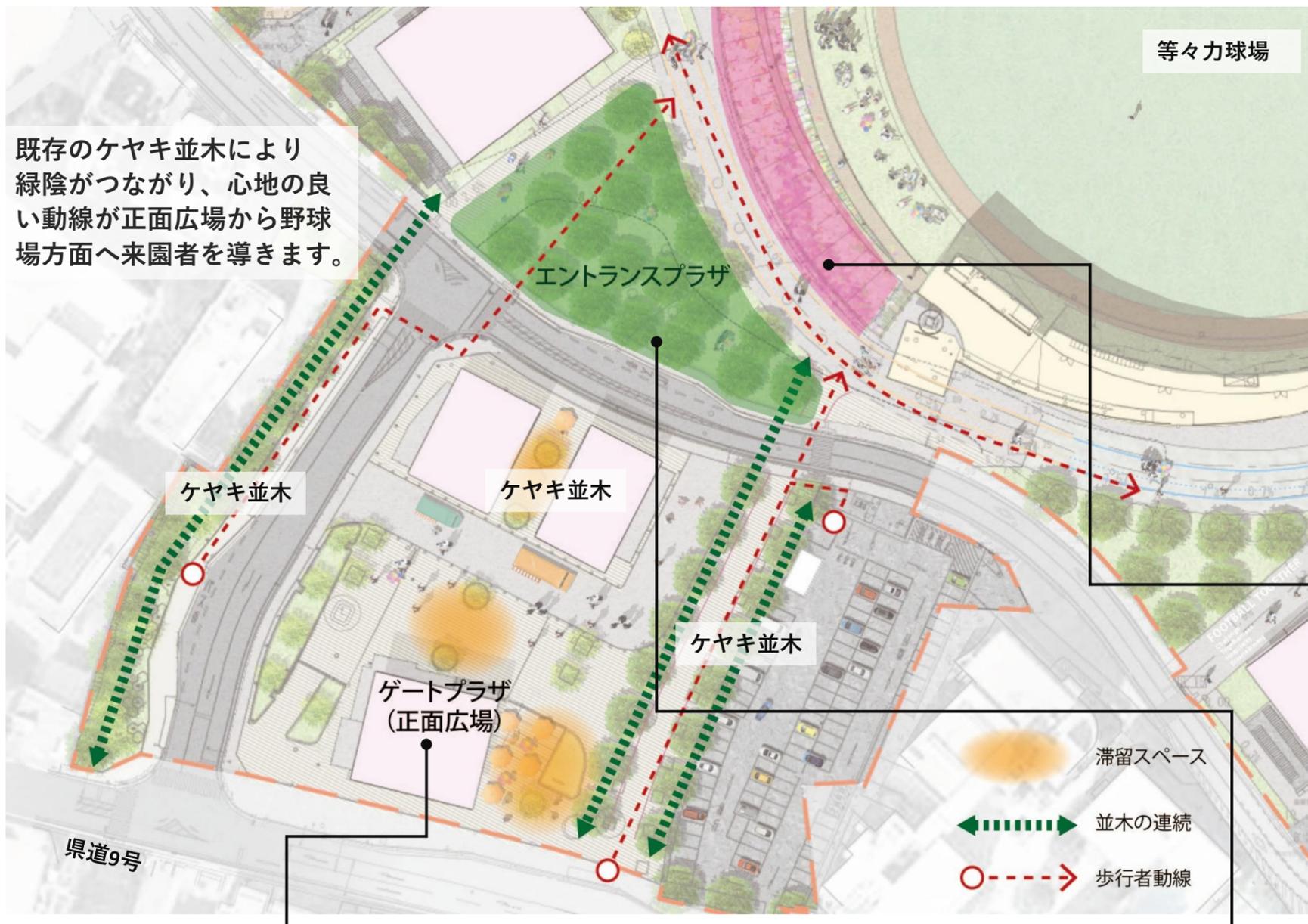
開放的な空間で誰もが思い思いに心地良く過ごせる等々力緑地公園のランドマーク広場



計画内容は今後各種検討、各種行政協議等により変更の可能性があります。

エントランスエリア

緑や彩を感じる空間で、通りすがりや待合せなどちょっとした時間を過ごせる等々力緑地公園のエントランス空間



既存のケヤキ並木により緑陰がつながり、心地の良い動線が正面広場から野球場方面へ来園者を導きます。

等々力球場

<現状の課題>

- ・ エントランスプラザの既存樹木は植樹が小さく生育不良のため、十分な緑陰が確保できていない状態です。



<改善の方針>

- ・ 既存舗装を撤去し土舗装とすることで、雨水浸透・根の伸長しやすい土壌環境に改善し、既存樹木の健全な生育を促します。
- ・ さらに、新植することで、まとまりのある緑陰を備えた快適なエントランス空間を創出することを検討します。



法面の花壇



緑陰を抜けた先で四季折々の花々がお出迎え。植物に触れるきっかけや友人と写真撮影など、パークライフを彩ります。

正面広場



緑に囲まれた飲食店舗と一体となった滞留空間では、大切な人との待合せや会話を楽しむことができます。人と人とのふれあいによって生まれる広場の賑わいが、来園者を心地よく迎え入れます。

緑陰の中のイベント



緑豊かな新しいエントランス広場では、優しい木漏れ日の下で、日常の休憩利用やマルシェ等の市民参加イベントを通じて顔見知りができ、地域とつながります。

計画内容は今後各種検討、各種行政協議等により変更の可能性があります。

みんなのはらっぱ

開放的な空間で誰もが思い思いに心地良く過ごせる
等々力緑地公園のランドマーク広場



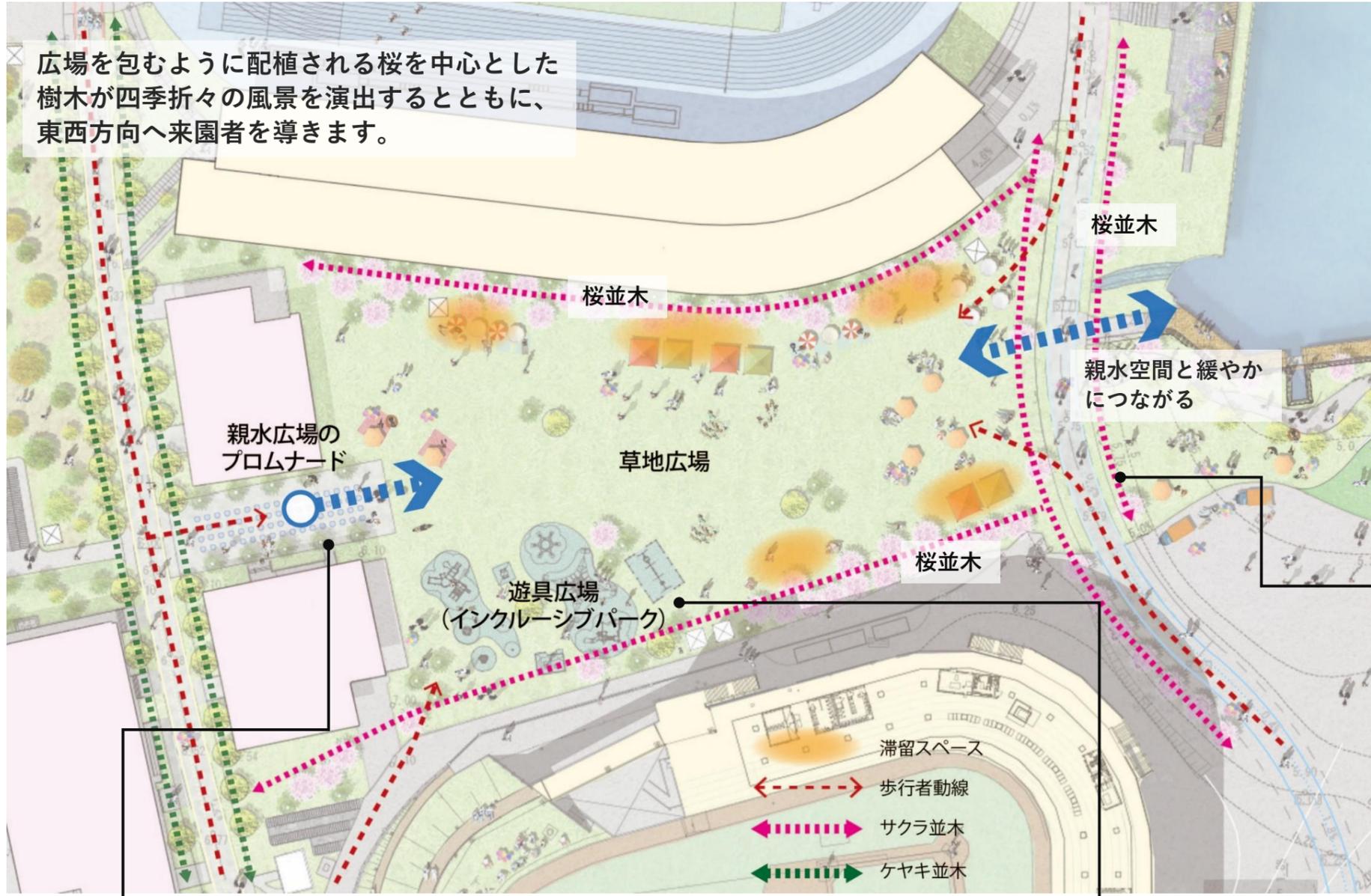
中央に広がるはらっぱは、来園者が自由に多目的で利用できる空間です。飲食店舗で購入したお弁当を持ち寄ってのピクニック、友人とのヨガ、親子でのボール遊び、子どもの見守りなど、それぞれのスタイルで思い思いの時間を楽しむことができます。



計画内容は今後各種検討、各種行政協議等により変更の可能性があります。

みんなのはらっぱ

開放的な空間で誰もが思い思いに心地良く過ごせる 等々力緑地公園のランドマーク広場

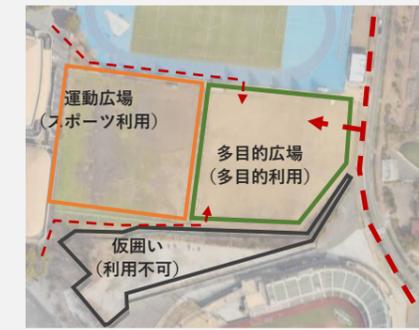


<現状の課題>

- 現在はスポーツ利用や仮囲いがあり、広場としての多目的利用できる範囲が限定的です。
- 周辺との動線のつながりも弱い状態です。

<改善の方針>

- 多目的に利用できる一団の広場として再整備することで、日常的に憩いや交流が生まれる広場として活用できるよう改善します。

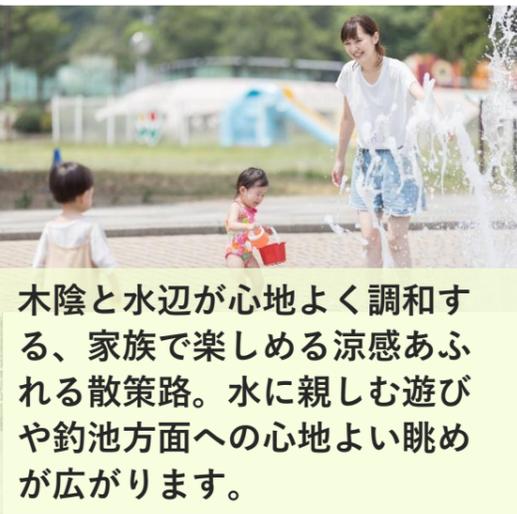


花見スポット



春の訪れを感じるお花見や散策が楽しめるサクラ並木。広場沿いや主要動線沿いに整備し景観軸と緑陰を形成します。

親水広場のプロムナード



木陰と水辺が心地よく調和する、家族で楽しめる涼感あふれる散策路。水に親しむ遊びや釣池方面への心地よい眺めが広がります。

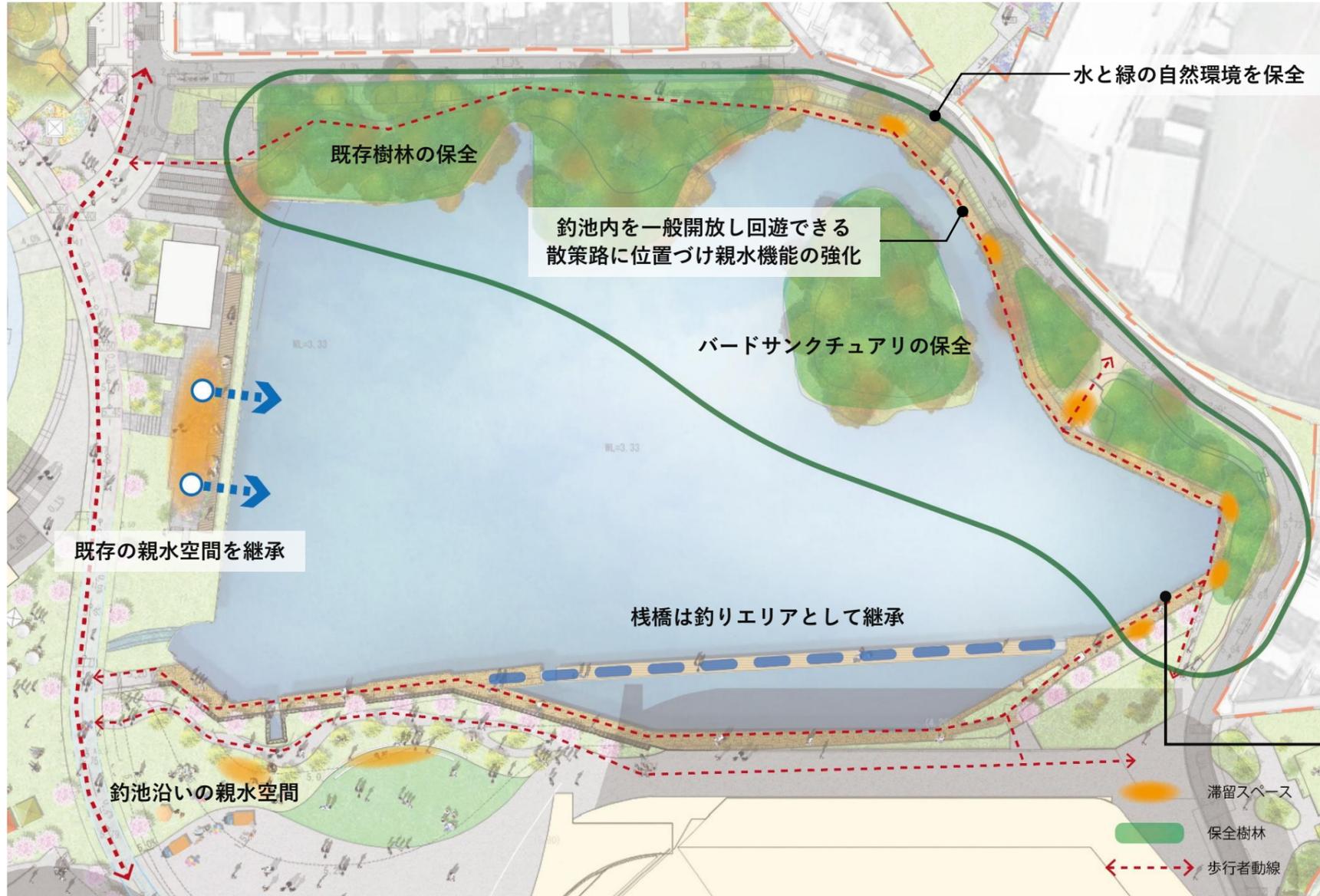
インクルーシブパーク



すべての子どもが自然に混ざり合い、想像力の発達、心や体の成長につながる遊び場となり、遊びを通じた交流や成長につながります。

ヒーリングエリア

水と緑を感じる様々な風景の中で日常のウォーキングなどの健康活動や休息を楽しめるやすらぎ空間



<現状の課題>

- アオコの発生により釣池の水質が悪化しており、生物の生息環境や景観の観点から水質改善が求められています。



- 樹林地の植栽密度が高いことや土壌環境の悪化等により生育不良が発生しています。



<改善の方針>

- アオコを除去する対策により水質改善することで、生物の生育環境や景観の保全・改善を図ります。



- 適切な樹林管理による採光・通風を確保することで、緑陰の感じられる快適な散策路・滞留空間を創出することを検討します。



みんなのはらっぱとヒーリングエリアの繋がり



賑わいの中心である、みんなのはらっぱから、ヒーリングエリアに向かって自然豊かで静かな空間に移り変わっていきます。多様な利用と自然環境保全が共生できる公園の姿を目指します。

散策路



釣池の散策路では静かな空間で野鳥の鳴き声など自然を感じながら散策を楽しむことができます。何気ない会話が生まれるなど、日常に彩りを添えます。

計画内容は今後各種検討、各種行政協議等により変更の可能性があります。

こもれびの森

森と一体となった木々の広場で木漏れ日の中、
仲間や家族と遊べる・学べる・憩えるこもれびの森



木漏れ日の差し込む穏やかな林間空間の中で、食事を楽しんだり、クラフト体験、防災キャンプなどのイベントを通じて、自然とのふれあいを身近に感じることができます。来園者が自然に親しむ第一歩となる、心地よいひとときを提供します。



計画内容は今後各種検討、各種行政協議等により変更の可能性があります。

こもれびの森

森と一体となった木々の広場で木漏れ日の中、
仲間や家族と遊べる・学べる・憩えるこもれびの森



21世紀の森の面的な緑とアクティビティループ並木の線的な緑を繋ぐ緑地帯を形成し、公園全体の緑のネットワークを強化します。



<現状の課題>

- 21世紀の森では、大きく育った木が増えたことで森の中に十分な日差しが届かず、新しく育つ木々がうまく成長できない状況になっています。



<改善の方針>

- 21世紀の森は、樹林地を極力保全しながら、適切な剪定や衰退した樹木の伐採を行い、採光環境を改善し健全な樹林構成を目指します。
- 適切な樹林管理を行うことで公園利用者にとっても歩きやすく、森の中で過ごしたくなる環境をつくります。



こもれびの森



アウトドア体験を通じて災害時の備えとなる知識やスキルの習得に加えて、活動を通じた住民同士のコミュニケーションを育みます。

木の実のなる木



在来種の中から選定した木の実のなる木は、どんぐり等の実や葉っぱを使った遊び・クラフトを楽しめるだけでなく、等々力緑地でみられる鳥類にとっての貴重な食料源となります。

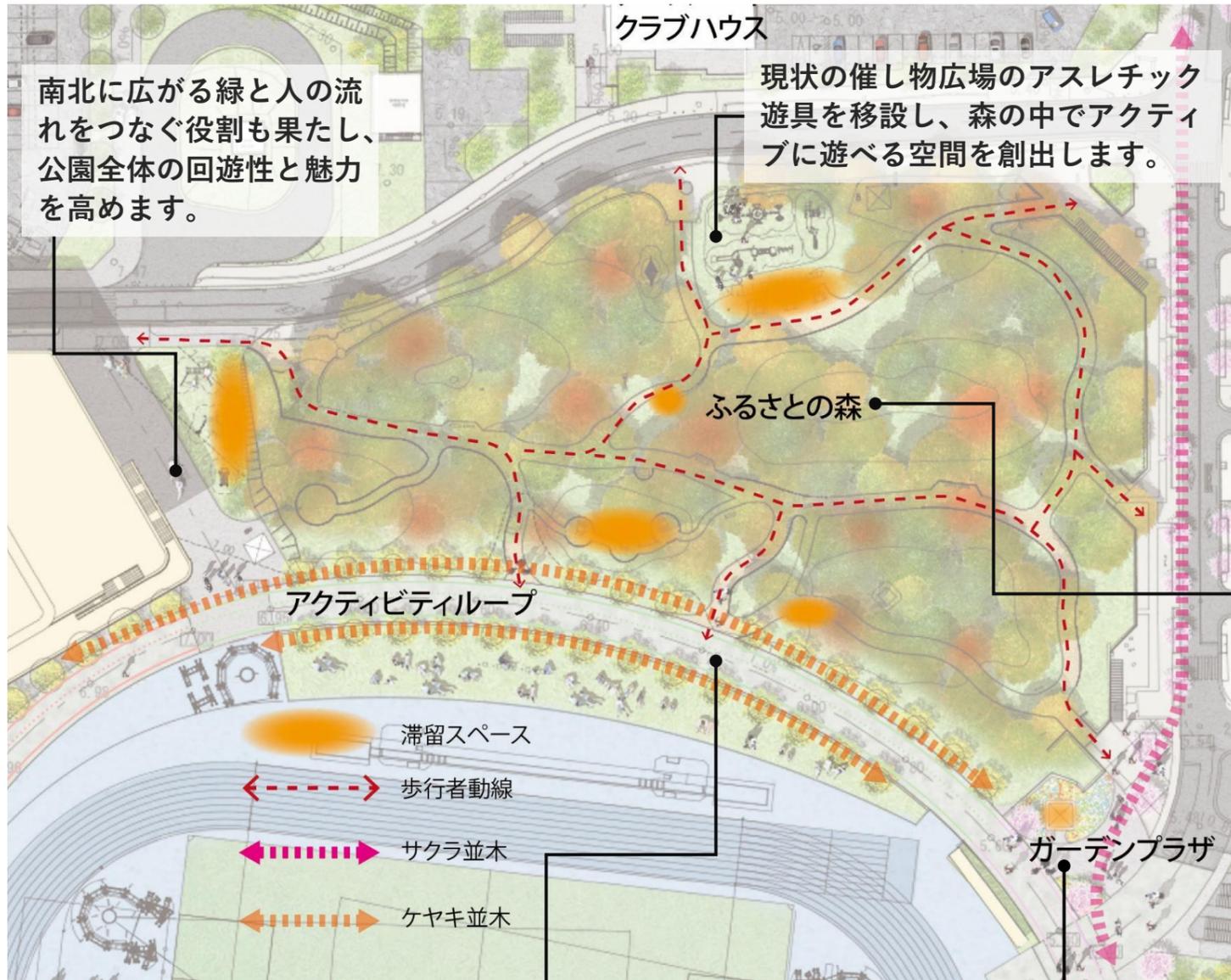
防災機能



公園外周の樹林帯は、火災発生時に延焼を抑える『防火樹林帯』として機能、周辺地域住民の安全を守る役割をします。

ふるさとの森

大きな樹木のある森の中で自然とのふれあいを通じた
様々な体験と交流ができる自然体験の拠点



<現状の課題>

- 生長した高木や実生木、繁茂した低木で過密になっており、通気や採光、見通しが悪化しています。



<改善の方針>

- 適切な剪定や衰退した樹木の伐採を行い、生育環境を改善し健全な樹林構成を目指します。
- 歩行空間と林床をエリア分けし、土壌基盤の踏み固めを抑止することで、樹木の健全な生育を目指します。



ふるさとの森



ふるさとの森では、子どもたちが昆虫採集や植物観察などの五感を使った自然とのふれあいを通じて、自然の仕組みや命の大切さを学ぶことができます。

アクティビティループのイチョウ並木



隣接するアクティビティループでは秋にイチョウ並木と既存樹木が相まった黄葉の景観を楽しみながら、気持ちよくウォーキングやランニングを楽しむことができます。

コミュニティガーデン



北東側のエントランス空間には、地域住民が四季折々の草花を育てるコミュニティガーデンが彩ります。庭づくりを通じて住民同士の交流や学びの場となり、人と人とのつながりを育みます。

計画内容は今後各種検討、各種行政協議等により変更の可能性があります。

スポーツエリア

川を感じる緑に囲まれた環境で、多様なスポーツを楽しむ人々が気持ちの良い汗を流せるスポーツリトリートゾーン



秋に紅葉を鑑賞する樹木（イロハモミジなど）による景観を楽しめるエリア

騒音軽減等に配慮した緩衝樹林帯

<現状の課題>

- 現状は多摩川への連続する緑が分断されており、連続性が十分に確保できていない。そのためエコロジカルネットワークが形成されていない。



<改善の方針>

- 外周部にまとまった緑地を整備するとともに、並木によりつなぐことで多摩川と本緑地、市街地の緑の連続性したエコロジカルネットワークを形成します。



スポーツフィールド



豊かな森に囲まれた多様なスポーツフィールドでは、木陰の中でサッカーやテニス、スケートボードなどを楽しむことができ、『する人』にも『観る人』にも心地よいスポーツ体験を提供します。

緩衝機能



公園外周に緩衝機能を持った樹林帯を形成し、公園からの騒音を軽減するとともに、周辺住居への見通しをほどよく遮りプライバシーを確保します。

多摩川ライン



シンボルとなる並木道を歩くと、等々力緑地公園ならではの、にぎわいに満ちたスポーツ風景が広がり、訪れる人々の心を惹きつけます。